

みんなのアートでつくる横浜

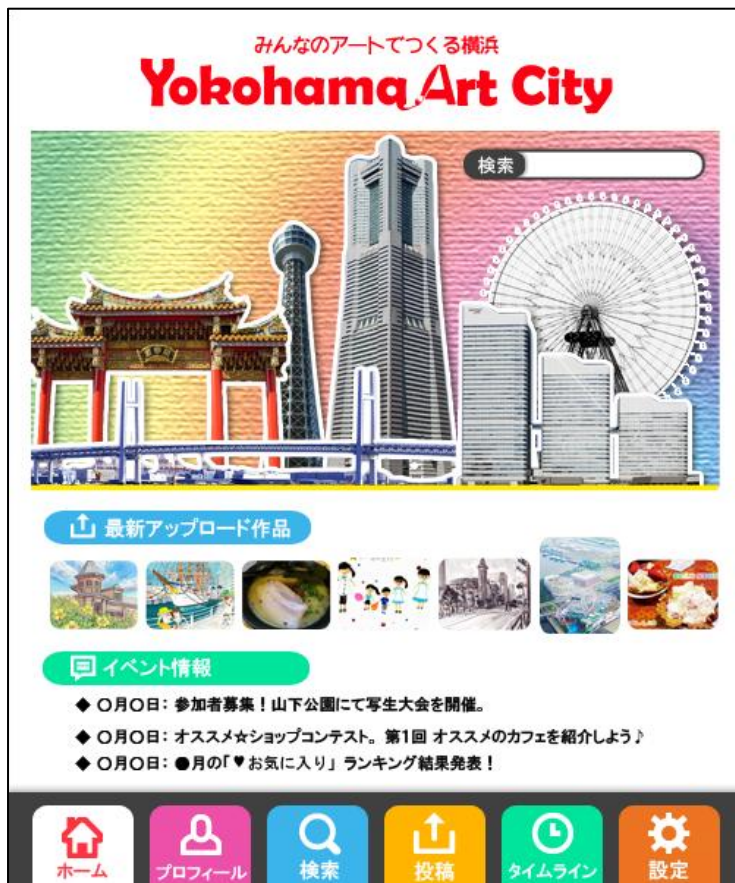
Yokohama Art City

<1. アプリの概要>

このアプリは、横浜の街や名所、名物など、様々な形の「横浜」を表現したアート作品を投稿してもらい、投稿された作品をもとに横浜の街をアーティスティックにみんなで作っていきこうというものです。また、SNS 機能を充実させることにより、利用者同士が交流したり、このアプリの運営主催でリアルにイベントを設けることで横浜を訪れる人の足を増やし、集客やより街に活気をもたらす効果も持つアプリとなるでしょう。

そして、どんな年齢層の方でも利用ができ、スマホやタブレット1つで、自分の作品の投稿も他の人が作った作品を見ることができます。また、他の SNS 同様に他のユーザーとのやり取りもチェックすることができ、イベントの情報を確認したり参加申し込みも、Wi-Fi 回線や PC がなくても、スマホやタブレット端末があれば、リアルタイムで投稿したり、いつでもどこでも利用可能です。

<2. アプリイメージ -メイン画面(ホーム)->



[主な機能と構成要素]

①**メインビジュアル**…創作性をイメージ(仮)として表現。代表的な建造物などを切り貼りしたような雰囲気と背景にキャンバスのテクスチャとパステルカラーの虹色を配色。投稿作品が集まり、コンテストなどを行える環境が整ったら、グランプリ作品などをトリミングし、配置することも検討すると良いかもしれません。

②**検索バー**…メイン画面にも配置することでアプリを起動してすぐに検索も可能。

③**最新アップロード作品**…フリックで横スクロールをしながら、投稿の新しい順に作品を閲覧できるようにする。

④**イベント情報**…このアプリの運営主催で定期的にイベントを発信することで、ユーザーの利用意欲を沸かせる。

イベントの開催は、リアルで行うイベントとアプリ内で行うイベントを両面から行うことで、前者で実際に横浜に足を運ぶ数を増やし、後者でアプリに定期的にログインしてもらう数を増やす。

具体的な開催イベントの例や詳細は→P.4 <6. イベント例>を参照。

⑤メニューバー…スクロール等をして動かさないように固定することで、どの画面を見ているメニューから使いたい項目を選択できる。

また、選択されているタブは、他のアイコンとは逆に色が反転する。↑の画像は、ホームが選択されている状態。

[メニューの内容(左から順に)]

- 1.ホーム：(アプリを起動して最初に辿り着く)メイン画面。
- 2.プロフィール：このアプリで公開する情報やアプリ内での自分をカスタマイズする。
- 3.検索：他のユーザーの投稿作品をチェックしたり、キーワード検索をすることでその場所の地図や概要を見ることができる。機能の詳細は、大見出し p.2 の<3. アプリイメージ -検索画面->を参照。
- 4.投稿：この画面から投稿を行う。基本的には各スマホ・タブレットのライブラリからアップロードする形。可能であれば、カメラを起動の機能をつけるか、他のカメラアプリ(ex. Instagram や LINE camera)と同期する形を取る。
- 5.タイムライン：他のユーザーの情報を購読したり、自分の作品が「お気に入り」を押された際やランキングで上位を獲得した際にその情報がタイムライン形式で掲載される。
- 6.設定：アカウントの情報の変更(プロフィールで設定するもの以外の要素=他のユーザーには非表示の要素など)、プッシュ通知の有無、要素の言語[日本語/英語/中国語?] の選択などをカスタマイズする画面。

<3. アプリイメージ -検索画面->



[主な機能と構成要素]

①検索画面&地図

…Google Map と連携し、地図の検索と同時にその場所に関連する作品の検索が可能。

②住所やショップ情報

…検索された場所の概要を表示。

③検索結果

…作品件数と作品(フリックで横スクロール)

④各投稿作品+投稿者の書き込み+投稿者名

+ **お気に入りボタン**

…他の SNS でいう「いいね」ボタンの様なもの。
このボタンを押したり、押されたりすることでユーザー同士の交流のきっかけを作る。

<4. アプリイメージ -プロフィール->

ログイン前に表示される画面（プロフィールの初期画面）



[説明]

「Yokohama Art City」のアカウントを作ってもらすることで投稿や交流が出来るようになります。ログインをせずに投稿や交流ができてしまうと、いたずらに投稿がされたり、誹謗中傷が起きる可能性を見越して、アカウントを作ること前提とします。

アカウントの作成に必要なものとしては

① **メールアドレス** / ② **パスワード**

もしくは

③ **他の SNS の ID との連携** を考えています。

連携できる他のサービスの候補としては、Facebook や Twitter などのメジャーな SNS、また Google や Yahoo!Japan の ID でのログインが可能になることによって、より広い世代のユーザーに利用を促すことが出来るでしょう。

特に Twitter や Facebook などを利用していないご年配の方々は、Google や Yahoo!の ID であれば持っているという可能性も高くなるため。

①・②のセットでも、③単独の連携でも、沢山の手続きや登録内容を踏まずにコミュニティーに参加できるという手軽さは、ユーザーの利用への敷居を低くすることができるでしょう。

<5. このアプリの用途>



①自分の作品を投稿

…デジタルであれば画像ファイルで、アナログでの作品であれば作品を撮影して、アップロードできる。

②他者の投稿した作品を閲覧→③・④に繋がる。

③実際に行く予定のある場所や行きたい場所に行ったことがなくても、その場所のイメージを掴める**&探せる**。

④「横浜」という街を通して、ユーザーのステータス(年齢・居住地など)に関わらず、**アプリを通して交流**できる。

<6. イベント例>

a. 現実でのイベントを開催

例えば 山下公園でスケッチ大会 というイベントを開催。

- ①参加メンバーをイベントスレッドにて募集する
- ②イベントの実施：現地集合で、持ち物等はスレッドで連絡をし、持参してもらう。
- ③作品の完成
- ④その場で作品を投稿してもらう。

- +a ・主催側が作品やイベントの風景を撮影し、イベントのスレッドに写真・動画をアップロードをする。
⇒より温度のあるイベントであることをユーザーに伝えることができる。
- ・作品のコンペ形式やコンテスト形式で、賞や景品を設ける。
⇒参加を促すと同時にユーザーのモチベーションも上がる。
*景品は、横浜に出店されているお店やエリアを限定した商品券や割引券などが良いかもしれません。
⇒横浜により足を運んでもらうきっかけを作れる。

b. アプリ内で定期的にコンテストを開催

例えば 「おすすめのカフェを紹介しよう」というイベントを開催。

- ①イベントの告知をアプリの中で行う。テーマや締切などの詳細をスレッドに記載。
- ②作品+紹介文をアップロードしてもらう。：専用スレッド or #イベント名で投稿で募集。

c. 「お気に入り」ランキング：月1回など定期的に「お気に入り(→p.2 参照)」の上位獲得数を発表。

上記<2.>の④にもあるようにイベントの開催は、リアルで行うイベントとアプリ内で行うイベントを両面から行うことで、前者で実際に横浜に足を運ぶ数を増やし、後者でアプリに定期的にログインしてもらう数を増やす目的があります。開催テーマやイベントのアイデアを募集しても良いかもしれません。

また、アプリ外での作品募集やアイデア募集などを行う場にもなり得ます。例えば、今まで外部のサービスや広告を使って募集していた「イベント用のキャラクター」や「ご当地ゆるキャラ的なマスコット」の募集を行うこともこのアプリがあれば可能です。

横浜の地域の方々、また市外・県外の方にもアートを通じて、横浜という街の魅力を知って、楽しんでもらえるアプリとなると思います。また、運営側にも大きな資本を投じずに情報発信をしたり、作品を募集したり、横浜を訪れる人や観光客を増やしたりと、メリットが多くあります。

そして、このアプリを通じて、時間や場所に関係なく、年齢や居住地などに縛られない「横浜」という街を共通に人と人が繋がるコミュニティを作ることができるでしょう。